

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.50 2011.10.5

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX 011-811-3831
URL <http://kikusui-net.jp>



福まち通信



老人クラブ演芸大会開催

9月23日(祝・金)菊水地区会館において、恒例の菊水地区・菊の里地区合同の老人クラブ連絡協議会主催による演芸大会が開催されました。開催時間前から多くの老人クラブ会員が会場に詰めかけました。

午前11時、菊寿会土肥会長の司会により、同連絡協議会高橋会長の挨拶で大会の幕が開かれました。菊水まちづくりセンターの諏佐所長を始めとした、来賓のご挨拶が済むと、早速着飾った会員による舞踊が行

われました。日頃のクラブ活動で磨きぬかれた踊りの数々は、どれも見ごたえのあるもので、尚且つ、年齢を感じさせない若々しい踊りでした。その中で若葉会の関谷夫妻によるダンスは日本舞踊の中で異彩を放っていました。若いときから始め、ここ数年前から再開したダンスの技術を活用して、日頃老人ホームなどのボランティア活動をしているとのことでした。



第1回福まち研修会開催

8月26日(金)午後1時から菊水地区会館において「第1回福まち研修会」が開催されました。研修会のテーマは「東日本大震災被災地での支援体験報告」で、講師は札幌市ボランティアセンターの柏浩文活動推進係長でした。

札幌市社会福祉協議会では、今回の東北被災地のボランティア活動を支援するため、ボランティアバスを計7回(1回につき40名)を現地へ走らせました。往復の交通費や食事・



宿泊費などを自弁しなければならないボランティア活動を支援することが目的でした。

ボランティア支援体制の整備

岩手県大槌町での活動は、民家のドロ出しがほとんどでした。その活動を通じて「ボランティア活動の注意点」や「活動の必需品」などの学習、社協としても「災害時のボランティアの受け入れ」や「活動支援体制」などの貴重な演習を重ねることができました。

その経験から、札幌で災害が起きたときに行政による災害対策本部や避難所の指定に過度に依存するだけでは不十分であり、地域における普段の心構えや準備が、いかに大切かを教えられました。



普段からできないことは、イザという時にもできない

今度の災害からの教訓として、避難所の運営がスムーズに行われないと、支援物資やボランティア活動の受け入れに大きな格差が生ずるということです。高台地域で地域の間人関係が破壊されずに存続していた自主運営の避難所と、その他の避難所の違いは、テレビの画面を通して明らかです。

菊水地区においても、避難所の状態(鍵の管理、備蓄食料や生活用具の確保など)を地域自ら確認することや、災害時避難困難者に対する支援のあり方などを、常に心がけておく必要があります。

敬老の日

敬老の日は、以前は9月15日でしたが、昭和41年に国民の祝日と定められ毎年9月の第3月曜日と改められました。今年は9月19日がその日に当たります。

敬老の日の行事

以前には地域のお年寄りを招待して敬老会を開くことが慣わしになっていましたが、昨今はお年寄りの数が増えたことにより、各单位町内会でお祝い金品をお配りするようになってきました。

札幌市では、毎年、その年度内に100歳になる高齢者の長寿を祝って、市長や区長がお宅を訪問し、記念品をお渡しする行事が行われています。





70歳以上の高齢者

札幌市では、15日時点の100歳以上の高齢者が603人に達し、過去最高の数になったと発表しています。その内訳は、男90人、女513人で相変わらず女性の長寿者がリードしています。最高年齢者は男107歳、女108歳でこちらも女性が勝っています。

全国では100歳以上の高齢者が4万7756人に達し、41年連続で最多を更新しました。男女別では女性が4万1594人と初めて4万人台を突破しました。男性は6162人でした。

菊水地区の地区内居住最高齢者

菊水地区に住民登録がある100歳以上の高齢者は、女性が4人おられましたが、いずれも病院や施設におられる方でした。その中で、菊水地区の施設で暮らしている方をご紹介します。

M-Hさんは、明治43年3月10日生まれの101歳です。生涯独身を貫かれ看護婦として働いてこられました。定年後は年金生活でしたが、加齢と共に一人暮らしが困難となり、特別養護老人ホームでの生活になりました。認知症の傾向が強まり、日によっての強い症状の変化が激しくなった7年前、小規模施設での生活が適していると判断され、菊水9条4丁目の認知症対応共同施設「グループホーム・みんなの家」を利用することになり、現在に至ります。日常生活では、自立心が旺盛で具合のいいときは何でも自分でするという気丈さを持っています。お茶と三味線が趣味でしたが、今はあまり触れることはありません。この施設は9人が一緒にユニット型の介護を行っており、利用者や施設職員は家族的な交流を続けています。



左から4人目がM-Hさん

よつクロ審査員特別賞受賞



市社協宮川常務理事から表彰状を受取る折原広報部長

福祉のまち推進ウィーク事業の一環として、今年も「福まち活動写真および広報紙コンクール」が行われました。

菊水地区の「よつ葉のクローバー」が2度目の審査員特別賞を頂きました。

また、活動写真は、一昨年の金賞、去年の銀賞に続き、今年は惜しくも佳作として表彰され、展示ボードに掲載されました。



表彰状を手にする広報関係者

「福まち発」地域福祉市民活動フォーラム

9月14日(水)午後1時半、北海道立道民活動センター(かでの2-7)において標記行事が行われました。

開会に先立ち、札幌市加藤敏彦保健福祉局長からご挨拶がありました。その中で災害対策に触れる部分がありました。

これからの防災は減災を基本にたてられるべきで、その中でも自助・共助・公助のバランスが大切になってくる。災害があつてからの3日間は、一人ひとりの自助と地域の共助によって持ち堪えていただきたい。「行政は三日間のうちに電気・水道・通信などのインフラの回復や避難所への救援を約束しますので、それまで



開会挨拶をする加藤局長

は地域力によって持ちこたえて下さい」との踏み込んだ発言がありました。

基調講演



日本福祉大学原田准教授

日本福祉大学原田准教授による基調講演がありました。テーマは「災害時に備えての福まち活動のあり方」でしたが、先生の生徒を率いての災害ボランティア実践の中から、現場に学んだ貴重な話は参加者の心に浸み込みました。これらは単に福まち活動だけでの学習ではなく、地域全体が普段から備えておくべきものでした。

その中で特筆すべきものを列記します。

① 防災教育や防災計画を見直す

形ばかりの防災マップに安心してはならない。複雑な指示系統は人任せや支持待ちになって非常時には機能しない。

② 避難訓練から非常時対応へ

どう避難するかも大切だが、避難所開設やその運営についての訓練がより大切である。

③ 要援護者の把握とかかわり

誰を見守るのか、どの家庭に心配りをするのかの「地域の見立てる力」が大切。個人情報保護の運用の見直しは「命より重たい個人情報はない」をモットーに行うべきである。

事例発表・シンポジウム

報告者 豊平区西岡地区福祉のまち推進センター 国島紀雄氏

白石区北白石地区北郷親栄第一町内会 田端隆二氏

コーディネーターとして日本福祉大学原田准教授が再び登壇

北白石地区での取り組み(紙面の関係でこれだけにします)

白石区では「災害時要援護者避難支援ガイドライン」の制定を機に、北白石地区をモデル地区と定めて「災害時要援護者避難支援事業」の推進を行いました。その前提として約 3500 戸の大規模町内会を 7 つの町内会に分割し、そのそれぞれに防災サポート隊を結成しました。町内会が実施主体となり民生・児童委員協議会など各種関係団体の協力の下に、平成 20・21 年の 2 年間で独居高齢者等を対象とした避難支援体制を確立しました。



事例発表の田端隆二氏

編集後記

台風 15 号が日本各地に爪痕を残して去ったあと、秋晴れの青空が天高く突き抜けています。明け方の気温は一寸身がしまる感じとなり、朝のラジオ体操も一枚上着が必要になってきました。この間まで暑さが恨めしく、熱中症対策云々といっていたのがあっという間に過ぎ去り、四季の移ろいの早さを感じています。

私こと福まち通信編集員は、平成 19 年 6 月から今日この 50 号まで、「よつ葉のクローバー」の編集に携わってまいりましたが、この度引退が認められ品川卓久氏にバトンタッチします。

思い返せば、この 4 年間色々な関係者の皆様取材させていただき、ご協力を頂きました。本当に有難うございました。お陰で菊水地区での人との付き合いが随分広がりました。

8 号からは月刊とさせていただき、市内の福まち広報紙の先頭を走ることになりました。北海道情報専門学校とのコラボにより、私としては初めての経験で菊水地区のホームページを作ることもできましたし、札幌市社会福祉協議会主催の福まち活動写真&広報紙コンクールでは、写真の部で最優秀賞と優秀賞を続けていただき、広報紙部門では「よつ葉のクローバー」は審査員特別賞を二度頂きました。

私は今年で数え 80 歳になりましたが、高齢者の生きがいの一つとして、広報紙編集という社会参加の機会を与えていただいた、福祉のまち推進センターに心から感謝申し上げますと共に、編集委員会での過度のおしゃべりを反省しながらも、皆様との楽しい意見交換に懐かしさを感じている次第です。

後任の品川氏に私同様のご愛顧を給われますようお願いし、お別れの挨拶といたします。

菊水福まち通信編集員 枝元 政 肇